

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅰ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	脇山園恵	開講期	1年 後期	単位数 2

【授業の主題】

本講では、ソーシャルワークの理念・概念やその形成過程について学ぶとともに、日本においてソーシャルワーカーとして位置づけられる、社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義などについて学ぶ。

【到達目標】

- 1) ソーシャルワークを担う専門職に必要なとなる基本的な視点について、ソーシャルワークの形成過程から理解できる。
- 2) ソーシャルワークを担う専門職に必要なとなる基本的な価値観について、日本社会福祉士会の倫理綱領と行動規範から理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 社会福祉士の役割と意義：社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法
- 第 3 回 ソーシャルワークの概念と範囲：ソーシャルワークの国際定義と構成要素
- 第 4 回 ソーシャルワークの形成過程①：ソーシャルワークの源流
- 第 5 回 ソーシャルワークの形成過程②：ソーシャルワークの基礎確立期
- 第 6 回 ソーシャルワークの形成過程③：ソーシャルワーク発展期
- 第 7 回 ソーシャルワークの形成過程④：ソーシャルワーク展開期と統合化
- 第 8 回 ソーシャルワークの理念①：ソーシャルワークの価値（価値観）
- 第 9 回 ソーシャルワークの理念②：人権と社会正義
- 第 10 回 ソーシャルワークの理念③：権利擁護
- 第 11 回 ソーシャルワークの理念④：自己決定、自立支援
- 第 12 回 ソーシャルワークの理念⑤：ノーマライゼーションとソーシャル・インクルージョン
- 第 13 回 専門職倫理の概念
- 第 14 回 専門職倫理綱領及び専門職としての行動規範
- 第 15 回 ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。日頃から新聞などで報じられる社会福祉に関する問題に関心を持ち、それらの問題とソーシャルワーク専門職との関係について確認すること。

【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規出版。

【参考文献】

- ・岩田正美・武川正吾・永岡正己・平岡公一『社会福祉基礎シリーズ① 社会福祉の原理と思想』有斐閣。
- ・小野哲郎『新・ケースワーク要論—構造・主体の理論的統合化』ミネルヴァ書房。
- ・小松源助『ソーシャルワーク理論の歴史と展開』川島書店。
- ・杉本俊夫・住友雄資『改訂 新しいソーシャルワーク 社会福祉援助技術入門』中央法規出版。 など

【成績評価方法】

平常点 20%、小テスト 10%、中間レポート 20%、期末試験（筆記）50%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【主な関連する科目】

社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉論Ⅰ、人間の理解Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ など

【学生へのメッセージ】

本講は、大学4年間におけるソーシャルワーク関連の講義や演習の基礎となる講義です。特に、社会福祉士受験資格取得を目指す学生は、積極的な知識の獲得を目指してください。